

1 学年通信

H30. 9. 18

発行

N o. 24

文責 富所 淳子

何事も、体験してみるのは大切なことです。感想にあるような積極的な行動を期待しています。

ボランティア体験

《学年行事 4 日目・9/6（木）》

米沢市社会福祉協議会の方にご指導いただき、「アイマスク体験」「車椅子体験」「高齢者疑似体験」を行いました。どれも、相手の立場になって考え、声かけをしたり、支えたりすることが大切だということを身をもって体験しました。これは、障がいのある方や高齢の方に対してだけでなく、友達や身近な人に対しても同じではないでしょうか。日常生活の中で相手を思いやって行動していれば、障がいのある方や高齢の方が困っている時には、すぐに行動できると思います。日々の生活の中で、どのように行動すればよいかを考える良いきっかけになったと思います。



障がいのある方や高齢の方がどんな状態で生活しているかが、この体験を通して分かったと思います。今の自分には何ができるか、何をすべきかを考えてみましょう。感想の一部を紹介しますので、ぜひ、互いの意見を交流して下さい。





《体験後の感想》

- ・物事には、何でも順番というものがあるので、自分勝手に全てを決めず、その人に聞いてから、自分がやらなければならない行動を決めて行動に移すことを当たり前にしたい。(梅津雄太くん)
- ・付き添ってくれる人がいて、1つ1つ何をするか言ってもらえると、安心することがわかったので、積極的に声をかけるのが大切だと思いました。(情野優也くん)
- ・今回の体験で、「声をかける」ということが大切なのだと、改めて知りました。学んだことを、社会に出ても生かしていきたいです。(佐藤優生さん)
- ・車椅子体験では、段差を上がるのが少し怖かったです。だから、支える時は、乗っている人が不安にならないように頑張りました。(沼部莉里さん)

- ・高齢者は歩くのも大変だということがわかりました。辛そうな高齢者の方を見かけたら、何でも話を聞いて、たくさん手伝いたいと思いました。(佐藤聖流くん)
- ・車椅子を操作する人が相手のことを考えないと、乗っている人は怖いと感じるので、ただ押すだけでなく、乗っている人と操作する人が一体にならないと安心できないと思いました。(鈴木頼人くん)
- ・私たちは、物が見えて、自分の足で歩けるから、あまり深く気持ちを考えたことがなかったけれど、体験してみて、不安で怖い気持ちがよくわかりました。(岡崎亜弥那さん)
- ・体験では、怖かったり大変だったことがたくさんありました。でも、支えてくれる人がいると安心できました。自分ができることで、少しでも助けになりたいと思いました。(佐藤彩羽さん)

- ・アイマスク体験では、目が見えなくなって、自分がどこに立っているのか分からなくなったけれど、友達が支えてくれて、しっかり歩くことができました。周りの支えも大切だと知って、もし、目の見えない人が困っていたら、きちんと助けてあげたいと思いました。(新宮琉生くん)
- ・車椅子の人や高齢者、目の見えない人達を手伝う時は、どうすればいいかをしっかり聞いて手伝うようにしたいです。(金子有希さん)
- ・どの体験も、人の力を借りてなんとか移動できるという感じでした。私が1番大切だと思ったのは「人と人との助け合い」です。進んで人を助けていきたいと思いました。(星雪菜さん)